

あつべつ区

社協 だより

第88号

[2021年8月]

【もくじ】 Contents

- 人のつながりを仲間とともに
— 民生委員・児童委員 —…………… P2～3
- 札幌市社会福祉協議会の仲間紹介②
札幌市厚別デイサービスセンター
…………… P4～5
- 赤い羽根共同募金のお知らせ…………… P6
- 厚別区社会福祉協議会
2020年度決算…………… P7
- 愛情銀行へのご寄附と
賛助会員ご加入者のご紹介…………… P8
- トピック ワクチンの予約を支援…………… P8



※写真撮影のため、マスクをはずしています。

社会福祉法人 札幌報恩会 グリーンホーム厚別

場所：厚別区厚別町上野幌822番地
電話：891-5583

札幌報恩会グリーンホーム厚別では、60名の利用者のうち15名が職員の支援を受けながら、椎茸の栽培作業に励んでいます。大きさや開き具合から収穫期を見極め、丁寧に収穫しています。元気な笑顔の皆さんが収穫した椎茸は、施設や地域のイベント（現在は休止中）のほか、コープさっぽろで販売され、好評を得ています。

お問い合わせは、施設長 浅岡さん (891-5583) へ



本紙はホームページでもご覧になれます

厚別区社協

検索

<http://www.sapporo-shakyo.or.jp/about/atsubetsu-shakyo/>



まもりんの
Twitterアカウントも
よろしくお願いします！



@mamorin93

人のつながりがりを仲間とともに

—民生委員・児童委員—



厚別西地区民生委員児童委員協議会

会長 **清野 実**さん

—子どもの笑顔は代えがたい

「きっかけは、当時の町内会長から声を掛けられたことです。福祉に特別な思いを持っていたということではないのですが…」そう言って笑うのは、厚別西地区民生委員児童委員協議会（以下「地区民児協」）会長の清野実さん（69歳）。民生委員・児童委員（以下「民生委員」）になったのは2010年12月。道職員として現職で仕事をしていた時期でした。

清野さんが最初に地域の中で役割を担ったのは民生委員になる前のこと。「町内会の役員を引き受けるにあたり、子どもに喜んでもらえる企画に関わりたいと思い、青少年育成部を選びました。子どもの笑顔は何事にも代えがたいですからね。」と目を細めます。2016年からは厚別警察署少年補導員も担っています。子どもの健全育成を願う清野さんにとって、子どもに関する相談事にも乗る民生委員を引き受けたことは、自然なことだったのかもしれない。

—仲間たちとともに進める活動

民生委員の主な活動内容は、一人暮らし高齢者等の安否確認や福祉相談、65歳以上名簿など行政の各種調査、町内会・福まちへの協力です。「活動に必要な情報を共有したり、お互いに助言し合ったりするために、地区ごとに民生委員仲間で見児協を組織し、助け合っています。」という清野さん。厚別西地区民児協（会員24人）では、毎月の会議で活動に必要な情報を共有するだけでなく、新任委員の不安を少しでも解消しようと、会長の清野さんが自ら講師になって研修をするなど、さまざまな工夫をしています。

「夕方になっても窓が開いたままになっている家がある。」ある日、同じ地区の民生委員から清野さんに電話が入りました。一人暮らしの男性の方で緊急連絡先などもわ

民生委員・児童委員は、地域で生活に乗り、助言したり適切な機関につながる地域の中から選ばれるので、住談員として地域で活動しています。

人と人とのつながりが薄れつつある中、重要性が高まる民生委員・児童委員活動の今を現職の民生委員事務局という立場のお二人に語っ

からず、夜が迫る中で途方に暮れての連絡でした。

清野さんはすぐに動きます。近隣のお宅や厚別区役所、警察、消防などに確認して、本人が入院中であったことが判明しました。「もし家の中で倒れていたら、短時間での状況確認は生きるか死ぬかを分ける鍵になることもあります。」これまで担当エリア内で孤立死が出たことはないという清野さんは、経験で培われた対応力と調整力で仲間の民生委員のフォローも欠かしません。

—厚別区の地域に育てられて

札幌市社会福祉協議会の大井戸麻衣さんは、2009年から2014年まで厚別区社会福祉協議会で事務局次長を務めました。関係機関が集まる「あつべつ☆ぷらネット会議」の立ち上げや福祉寸劇団への参加など、厚別区の地域福祉の基盤となる活動に関わりました。「毎日が充実していました。何より地域の皆さんが温かく接してくださり、とても楽しかったです。」と大井戸さんは振り返ります。

「民児協も担当しました。民生委員の皆さんには地域のことをやさしく教えていただき、すぐに仕事に慣れることができました。」地域に育ててもらったという感謝の気持ちは、楽しかった思い出とともに、今でも大井戸さんが仕事を進めるうえでの支えになっています。

—コロナ禍で民生委員が抱える課題

そんな大井戸さんは現在、市社協地域福祉課長として、全市の民児協の事務局を所管する立場にあります。

「昨年からは、コロナ禍における活動のあり方が全国的にも大きな課題の一つとなっています。」と大井戸さんはいます。「例えば直接訪問から電話やインターフォン越しの安否確認に切り替えるなどの工夫をしているところは多くあります。でも、対面での会話に比べると小さな変化には気づきにくく、様子を把握しきれないと、もどかしさを訴える声も少なくありません。」

の困り事を抱える方の相談ぐボランティアです。住民の目線を持った身近な相談員として地域で活動しています。中、重要性が高まる民生委員・児童委員とそれを支援していただきました。



社会福祉法人札幌市社会福祉協議会

地域福祉課長 **大井戸 麻衣**さん

厚別区、北区、手稲区の事務局次長を歴任。現在は、地域福祉課長として、福祉のまち推進事業、福祉除雪事業、ふれあい・いきいきサロン、生活支援体制整備事業、生活福祉資金貸付、札幌市民生委員児童委員協議会事務局、札幌市共同募金委員会事務局などを所管している。

それは、民生委員に求められる役割が遂行できなくなるといった問題にとどまらず、困り事を抱える方に寄り添う立場の民生委員が地域の中でつながりを失ってしまうという制度の根幹に関わる問題です。感染拡大は避けなければならないが、民生委員活動が滞れば、問題はさらに深刻さを増すというジレンマを抱え、事務局の立場で頭を悩ませています。

—民生委員と福まちは地域福祉の両輪

民生委員とともに地域福祉の担い手となる組織が福祉のまち推進センター（以下「福まち」）です。これは札幌市独自のしくみです。各地区に組織される地区社会福祉協議会の実働部隊として位置づけられることも多く、一人暮らし高齢者の見守りや簡単な生活支援ボランティア、交流イベントなど、地域の特色に合わせた取組を行っています。

「民生委員活動と福まち活動の目指すべきところは同じ。お互いの役割や強みをしっかりと理解し、連携することが大切。」と清野さん。厚別西地区では、民生委員が相談を受けたケースを福まちの登録ボランティアにつないだり、福まちが把握した困り事を民生委員に相談したりといった連携が行われています。

「厚別西地区では、福まちが主催するお食事会などの行事が民生委員と福まちのボランティアとのコミュニケーションの機会となっていました。しかし、その行事も昨年からは2年続けて中止になってしまいました。」こうしたところにもコロナ禍は影を落とします。

「町内会の見守り活動に関する会議に民生委員と福まちの事務局が同席し、地域包括支援センターや介護予防センターなどの福祉専門機関とともに、調整や情報共有を行っているような事例もあります。」大井戸さんが挙げた事例

に、清野さんは「お互い守秘義務があるので、情報のやり取りは細心の注意をはらわなければなりません。」としつつも、「人の命を守ることが最優先。事前に本人の同意をとるなど、工夫しながら対応すべき。」と情報交換を含む連携の重要性に理解を示します。

互いに安心して暮らせる地域の実現を目指して、民生委員と福まちが両輪となって地域福祉を進めます。

—たくさんのつながりを力に

「少しずつ地域の中で顔見知りが増え、『こういう相談はあそこにつなぐ。』という感覚も磨かれていきます。うまく調整できたときの充実感は大きいです。」と清野さん。

地縁が薄れつつある今、近所の人と関わるのが苦手という人も少なくありません。でも、人が誰とも関わらずに生きていくのはとても難しいことです。時々声掛けをしてくれて、困ったことがあったら聞いてくれる。そしてたまにいい意味でおせっかいは焼いたりもする。民生委員はそんな人たちです。

「私も人と話したりすることが特別好きというわけではありません。ただ、仕事を退職した後にこんな新しい出会いがあるということは、よく考えてみればすごい事。特に、同じ志を持つ地区民児協の仲間は『一生の宝』です。」と清野さんはかみしめるようにお話ししてくださいました。

「私たちは民生委員のことをもっとたくさんの人に知ってもらおう努力をしていかなければいけません。民生委員を頼りたい人にも、将来の民生委員の担い手にも届くように。」民生委員・児童委員の事務局を担う大井戸さんの言葉に、清野さんも大きくうなずいていました。

仲間たちとともに 人が安心して暮らせる地域を目指す

札幌市厚別デイサービスセンター

札幌市厚別デイサービスセンターは、要介護認定を提供する通所施設です。札幌市が高齢者の方々の憩いのセンターに併設しています。
今回は相談員の佐々木浩介さんにお話を伺いました。

けた方を対象に入浴、食事、機能訓練などのサービス場、健康増進の場として各区に設置している老人福祉セ



札幌市厚別老人デイサービスセンター

相談員 佐々木 浩介さん

一人を助ける仕事がしたい

札幌市社会福祉協議会が運営する札幌市厚別デイサービスセンターで相談員を務める佐々木浩介さん(31歳)は、2020年にこの仕事に就いたばかり。元々人を助ける仕事に携わりたいと考えていた佐々木さんは介護士の資格を取り、数年前民間企業の介護部門に就職しました。

「仕事にやりがいにはありましたが、もっと広い視点で福祉の仕事に関わりたいという想いが強くなり……」相談業務や地域支援業務に就くことも見据えて、社会福祉士の資格取得を目標に勉強を始めます。「働きながらの試験勉強は簡単ではありませんでした。頑張れたのは妻の支えがあったからですね。」とはかむように笑います。福祉系の大学を卒業した奥さんが勉強に付き合い、アドバイスをしてくれました。その甲斐もあって、社会福祉士の資格を取得し、札幌市社会福祉協議会への転職を果たしました。

将来はいろいろな部門を経験したいと考えている佐々木さんは、同会が若手職員の育成を目的に開催している「未来塾」のメンバーに選ばれ、組織内で他の業務を行う仲間たちと切磋琢磨しながら明日への力を蓄えています。

一日サービスの一日

デイサービスの一日は利用者のお迎えから始まります。一日の利用者は、約20名。佐々木さんも運転手や介添え役としてお宅を回ります。

10時頃、施設に到着したら、看護職員による健康チェック。終わった方から順次入浴となります。大きな浴槽にゆったり浸かれることを楽しみにしている人も多いいいます。一人ひとりに職員が付き添い、介助が必要な方には体を洗うお手伝いもします。

入浴後はお昼を食べて、午後はレクリエーションや健康体操。人によっては、利用者同士でゲームをしたり、お昼寝をしたりして自由に過ごします。

15時頃、それぞれの自宅にお送りする時間になります。佐々木さんは、こうした業務のほか、相談員として利用

者の話を聴き、ケアマネジャーから寄せられる利用相談などへの対応や利用者のサービスに関する連絡調整を行っています。さらにレクリエーションや季節のイベントの準備、業務記録の整備などで大忙しですが、「仕事はとても楽しいです。」と充実した毎日の様子を笑顔で話します。

コロナ禍の憂鬱

昨今のコロナ禍でデイサービス業務にも大きな影響が出ています。昨年の9～10月にかけて、別法人のケアマネジャーが新型コロナウイルス感染症に感染したことが判明。佐々木さんを含むデイサービスの職員も濃厚接触者としてPCR検査を受けたことがありました。

「毎日のように報道されていることではありますが、いざ自分が感染の疑いとなると、やはり不安でした。発症してしまったらという恐怖もそうですが、家族や利用者さんに感染させてしまうことがすごく怖かった。」

幸いなことに、佐々木さんをはじめ厚別デイサービスの職員に陽性者はいませんでした。しかし、その後も常に感染するかもしれないという恐怖心が消えることはなく、人と接することを望んで就いた仕事であるにも関わらず、大きなストレスを感じるようになりました。

佐々木さんは、そうしたストレスの解消のため、休日に妻とのジョギングを楽しんでいるといいます。最近はあまり人がいるところには出かけられないということもあり、釣りも始めました。「仕事のストレスを忘れられる時間ですね。」充実したプライベートの時間を確保することが、佐々木さんが仕事の壁を乗り越えてきた秘訣です。

長引く自粛生活への危機感

国内で感染拡大が始まってすでに1年半。人々の外出自粛が続く、利用率は一時大きく低下しました。高齢者住宅などでは、デイサービスの利用を避けるところもあったといえます。一時期は12名が登録し、活躍していたボランティアも、現在は半数の6名に減っています。

人々の自粛生活が長く続いたことに、佐々木さんは危

機感を抱きました。デイサービスは人の社会的孤立感の解消、心身機能の維持向上などを目的としており、利用を控えることで、心身機能が衰える恐れが高いからです。

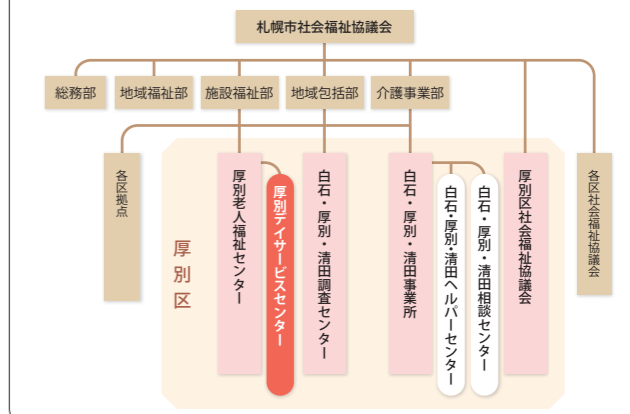
「本人の残存機能が失われ、認知症が進行します。これまで職員と利用者・家族がともに頑張ってきたことが無駄になってしまいます。そうした事態は絶対に避けたいです。」そう佐々木さんは声に力を込め、他の職員とともに、安心してデイサービスを利用できる環境づくりに取り組みました。

「最近が高齢者のワクチン接種が進んだことで、日によっては新型コロナ感染症の流行前よりも利用者が多いこともあるほど改善しました。」デイサービスに賑わいが戻ってきたことに、佐々木さんは胸をなでおろします。

たくさんの「ありがとう」

新型コロナウイルス感染症の恐怖を乗り越え、利用者に関わり続けることへのモチベーション。佐々木さんにとってそれは、利用者やその家族からの感謝の言葉です。「『ありがとう』という言葉をかけてもらうたびに、これからも

厚別区内で札幌市社会福祉協議会が運営する組織は、厚別区社会福祉協議会のほか、厚別区老人福祉センター、白石・厚別・清田ヘルパーセンター、同相談センター、同調査センターがあります。



頑張ろうという気持ちになります。」たくさんの『ありがとう』の言葉は、「多くの人を支えていきたい。」と願う佐々木さんが利用者を支援していく力の源となっています。

「これまで、決めたことにはあきらめずにチャレンジしてきました。デイサービスの相談員としてはまだ新人ですが、周りの先輩方に助けてもらいながら毎日の仕事に向き合うことができます。厚別デイサービスセンターはみんな優しく頼りになる職員ばかりで、とても恵まれています。」と仲間への感謝の想いを口にします。

たくさんの経験や仲間との出会いを成長の糧として、佐々木さんはこれからも「人を助ける仕事」を担っていきます。

札幌市厚別デイサービスセンターでは、いつも笑顔が溢れ、たくさんの『ありがとう』が交わされています。利用者や職員がともに作り出すその雰囲気、質の高いサービスの提供につながっています。

《ボランティアを募集しています》

札幌市厚別デイサービスセンターでは、利用者の方の施設内の生活をより快適で充実したものとするために、地域のボランティアの方にご協力いただいています。
人と関わることが好きな方や誰かのために何か活動したいと思っている方など、お気軽にお問い合わせください。

活動内容

- ①お茶出し、話し相手、入浴後の整髪、昼食の配膳
- ②レクリエーションのお手伝い、外出行事同行

曜日・時間

- ①月～土曜日 9:45～12:00 (又は15:30)
- ②月～土曜日 13:00～15:30

札幌市厚別デイサービスセンター(札幌市厚別老人福祉センター内) 場所:札幌市厚別区厚別中央1条7丁目17-25 電話:892-2211





あなたの募金が 厚別区のまちづくりに つながります



赤い羽根共同募金は、誰もが安心して暮らしていけるよう、住民が主体となって取り組んでいる活動を支援しています。

皆様からお寄せいただいた2020年度の募金3,805,354円のうち、2,346,000円が厚別区内の地域福祉活動に使われています。ご協力ありがとうございます。

- 地域の社会福祉の活動に1,686,000円 厚別区内の各地区社会福祉協議会
- 高齢者・児童・NPOに260,000円 厚別区老人クラブ連合会 など
- 区全域の福祉活動に400,000円 厚別区社会福祉協議会 など

このほか、道内・市内の福祉団体への助成や、被災地ボランティア活動を支援するための積立金にも活用されています。

募金が使われている事業のご紹介

厚別西地区社会福祉協議会(阿部芳昭会長)では、新型コロナウイルス感染拡大のため中止したふれあい昼食会に代わり、健康維持を目的とした「一人でもできるタオル体操事業」を行いました。事業費21万円のうち8万円は共同募金の配分金を活用しています。

地区内の344人のひとり暮らしの高齢者に、タオルと体操のことを載せたチラシを郵送。4年前まで福まちで活動をしていた廣原京子(84歳)さんには、福まち事務所からすぐ近くということもあり、ボランティアの鈴木博子さんが直接タオルとチラシをお渡ししました。



廣原京子さん(右)と福まちボランティア鈴木さん(左)

募金付きピンバッジのご紹介

※グッズ代金の全部・又は一部が赤い羽根共同募金への募金となります。

厚別区限定(各1個500円)

2021年度のオリジナルピンバッジは、青少年科学館オリジナルキャラクター「ウインキー」とのコロナピンバッジです。

本物のウインキーには青少年科学館で会えますよ。



募金付きグッズは、厚別区共同募金委員会(厚別区社会福祉協議会:厚別区民センター1階)で取り扱いしています。数量に限りがありますので、お問合せください。

☎問い合わせ先: 895-2483

2020年度 共同募金運動功績者感謝状贈呈式

2021年4月19日、札幌市社会福祉協総合センターで、共同募金運動に功績のあった個人や団体に対する感謝状贈呈式が行われました。

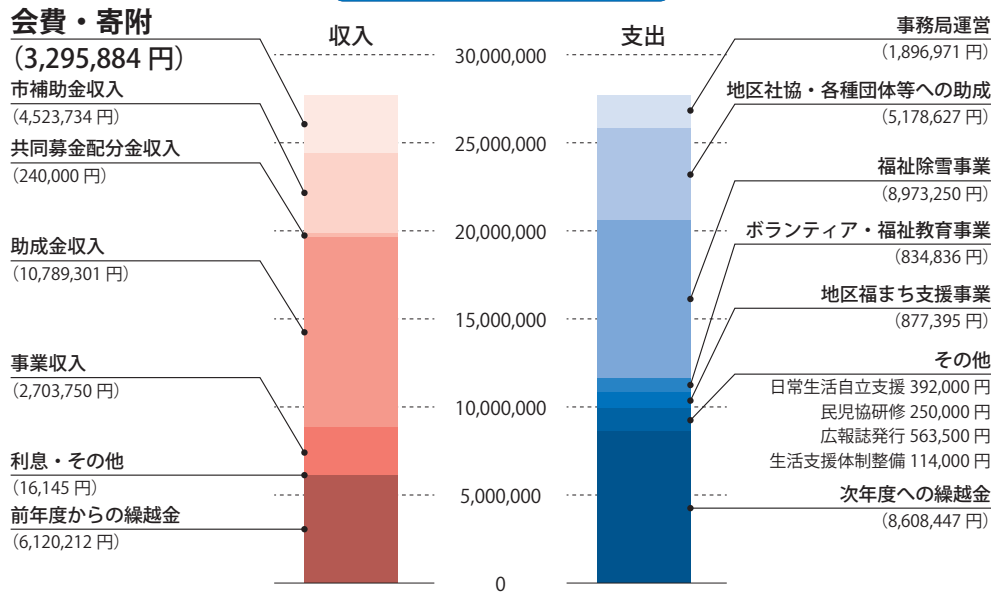
厚別区からは、高澤英治さん、一戸愛子さん、老人クラブ大谷地友和会、厚別東商業高等学校が選ばれました。



厚別区共同募金委員会監事 高澤英治さん

このページの写真は、すべて撮影のためマスクをはずしています。

総額 27,689,026 円



2020年度の主な事業 ～新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえた事業展開～

○厚別区地区福祉のまち推進センター活動交換会

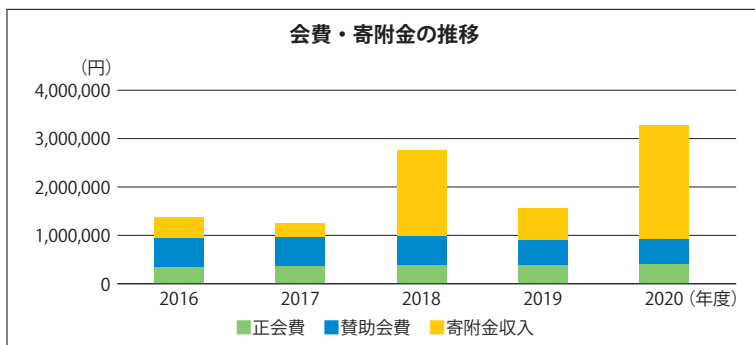
「変わる地域社会における新しい『絆』を考える」を研修テーマとして、北星学園大学の岡田教授と豊中市社会福祉協議会の勝部麗子さんにご講演いただきました。

会場の感染予防対策を徹底するのはもちろんのこと、都市間の移動抑制の観点から、勝部さんには地元の大阪からZoomで参加いただくなど、新たな講演のスタイルに取り組みました。



厚別区社協に会費や寄附がたくさん集まると……

今よりもっと、地域に支え合いの取り組みが広がります



皆さんからいただく会費や寄附金は、私たち区社協が実施する地域福祉事業の事業費の一部、または、住民主体のボランティア活動や支え合い活動を応援する助成金の一部となっています。

厚別区の福祉活動をもっと盛んにしていくための貴重な財源です。



寄附とは、 誰かを信じてその人にあなたの気持ちとお金を託す行為です。

厚別区には、この街のため、ここに暮らす人たちのために頑張っている方々がたくさんいます。私たち区社協も微力ながら協力し応援しています。

私たちの街が、ここに暮らす全ての人にとって、今よりもっと温かくて安心な街になってほしい。そんなあなたの気持ちを、寄附・会費に変えて、私たちに託していただませんか。

会費・寄附のお問い合わせ 厚別区社会福祉協議会 TEL 895-2483

愛情銀行へのご寄附 ありがとうございました

《2021年4月から7月までのご寄附》

- ・厚別南町内会連合会女性部 様
(厚別南地区社協への指定寄附) ——— 41,436円
- ・厚別区老人クラブ連合会 様 ——— 10,000円



厚別南町内会連合会女性部の皆様(写真中央3名)と
厚別南まちづくりセンター所長(写真左)

※写真撮影のため、マスクをはずしています。



ワクチンの予約を支援 ～青葉地区社協

青葉地区社会福祉協議会(土田義也会長)では、インターネットの操作に不安がある高齢者などを対象に、2021年6月15日から全市に先駆けてワクチン予約支援を開始。

会場の青葉会館(青葉町3丁目2-26)には、6月末までの期間中、81人が訪れ、地域のボランティアの支援を受けました。予約を済ませた人たちは、皆一様にほっとした表情を見せていました。



賛助会員へのご加入ありがとうございました

《2021年2月4日～7月14日まで》

【厚別南地区】

《個人》栗生 賢一 様 小野 栄則 様 小野 昌子 様 匿名 様
《団体》コープ野村大谷地自治会 様 上野幌中央第7町内会 様 上野幌中央第11町内会 様
上野幌中央第四町内会 様 大谷地町内会 様

【厚別西地区】

《個人》矢野さえ子 様 井上 一弘 様 堤 清隆 様 竹内 忠敏 様 菅原 新一 様
藤原 武光 様 佐藤アツ子 様 柴田 俊明 様 鈴木 雅己 様 八幡 町子 様

【もみじ台地区】

《個人》野村 秀雄 様

体が痛いであるとか、
目が見えなくなってきたりであるとか、
そうした中であつても「今が一番」と
思つて暮らしていたらげらうように。

今が一番

介護付有料老人ホーム

のりどりの泉

介護付有料老人ホーム(特定施設)・サービス付高齢者向け住宅
〒004-0003 札幌市厚別区厚別東3条6丁目5-35 ☎011-897-6610

サービス付高齢者住宅 アリビオもみじ台

- 入居一時金は0円
- 有資格者による生活相談
- 介護・医療などのサービスが自由に利用できる
- バリアフリー設計で各所にインターホン完備

- 医師による定期的な訪問診療
- 経営は医療法人なので入院治療も可能
- 協力病院まで無料送迎ワゴン運行
- 栄養士によるバランスのとれた食事

【一般プラン】

入居料金 136,248円

【夫婦プラン 1部屋分 家賃無料】

222,496円

入居料金に含まれるもの(共通)
●家賃 ●食事代3食
●管理費 ●水光熱費
●暖房費(冬季)

サービス付高齢者住宅
アリビオもみじ台

〒004-0014 札幌市厚別区もみじ台北6丁目1-6
TEL.011-898-3737 FAX.011-898-5005